

令和5年度「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」の成果報告

自主性を育む教育連携が「自立した学習者の育成」のボトムアップに貢献。教育現場とテレビ局の協働は「継続」により、確かなメディアリテラシー習得の機会になる。

実施概要

KAB熊本朝日放送が、高森町・高森町教育委員会と結んだ「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」は、2年目に入り、重層的かつ複合的な学びの場の基礎を築く1年になりました。

コロナ禍が落ち着き、ようやく実現したのは、小学5年生の社会科に採用されている「情報産業と私たち」におけるテレビ局のスタジオ見学です。

従来であれば座学で取り組むこの單元ですが、高森中央小学校・高森東学園義務教育学校の児童は、実際にテレビ局で授業を実施しました。スタジオでのカメラ操作体験やニュースデスクへのインタビュー、アナウンサーのリハーサル見学など、生放送の仕組みに触れる時間は、実感を伴う学びの機会になっています。



高森中学校でも本格始動

高森中学校では1・2年生で集中講座を開きました。1年生の国語科では、複数放送局の同一取材における構成比較で報道の視点を分析した後、阿蘇地域の世界農業遺産認定時の実際の取材メモを提供し、独自教材を用いたニュース原稿制作を行いました。班ごとに組み立てた発表はバリエーションに富んでおり、「伝える」ために行われている「編集」の持つ意味を感じてもらっていると期待しています。



また、2年生の社会科で行ったのは、社会問題の解決に向けて不可欠な「リサーチ」の方法を考える講座です。生徒の意見を重ねることで、普段触れている情報の確度が明らかになり、自ずと「正しい情報とは何か」を考える時間になったことは、「メディアリテラシー」について学ぶことにつながっています。



そして、アナウンス指導にあたる立場の講師による発声練習を交えたアナウンサー講座は、教育現場の課題のひとつに挙げられている、子ども達の「伝える力」を養う土台作りに役立っていくと信じてやみません。

令和5年度「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」の成果報告

高森東学園では本格的な番組制作



そして、高森東学園では昨年同様、異学年合同で取り組む「高森ふるさと学」を協働し、今年度は「高森町のニュース番組制作」を行ないました。テーマ決めはもちろん、取材先のリサーチや選定、カメラ撮影やインタビュー、構成の組み立てにナレーション原稿の作成や収録など、多岐にわたる工程は実に4カ月にもわたりました。5年生から8年生が4班に分かれ、役割分担しながら取材し、素材が集まったあとも、

インタビュー起こしやオンライン編集、さらには不足分の再撮影など、番組の完成に向け妥協なく取り組む姿勢には、自らの成長を求める強い意志を感じました。「NOKaTs広めるばい」と題した高森小中生による地域活性番組は、23年12月31日午後4時55分に地上波で放送。大人顔負けの仕上がりになったことは、「自立した学習者」たちの頑張り以外の何ものでもありません。「初めての経験が楽しかった」「番組作りの工夫をたくさん知ることができた」「インタビューした方に楽しいと言ってもらえた」などの子ども達の言葉には、充実した時間を読み取ることが出来ます。



[高森小中学生による地域活性番組～NOKaTs広めるばい～にリンク](#)

まとめ

さて、2年目となった高森町・高森町教育委員会との教育連携の総括ですが、年度のカリキュラム開始時点で既に私たちの間に一定の「信頼関係が築かれている」ことにより、いっそう「才能をひろげる機会」になったと感じます。教育においては、この土台こそが重要で、さらに重層的な取り組みにつながる予感がしています。また、「番組」と言う「アーカイブ」を残したことによって、学習成果としての価値も高まったのではないのでしょうか。

教員の皆さんにも様々な場面でご苦勞をお掛けしましたが、意欲的に取り組んでくださったことが今年度の「成果」につながりました。改めて、関係各位に感謝申し上げます。無限の可能性を秘めた子ども達には、相互理解を重ねることで深まる知識欲があるように感じます。これからも試行錯誤を繰り返しながら、教育への企業貢献を続けていきます。

令和5年度の対象校および実施実績

高森東学園5年～8年 / ニュース番組制作 高森東学園9年 / 高森子ども議会発表フォロー
高森東学園5年 / KABスタジオ見学
高森中学1年 / 国語の授業での指導 高森中学2年 / 社会の授業での指導・アナウンサー講座
高森中学3年 / 高森こども議会発表フォロー
高森中央小学校5年 / KABスタジオ見学